

冬日中年齡つもる郵便受

杉野一博

雪達磨浮灯台の揺れつづけ

杉野一博

菜の花の沖や新幹線へ旗

船矢美雪

温泉に手足の溶けて去年今年

船矢美雪

時雨傘さしかけられぬ車椅子

伊東次雄

点滴の一滴ごとに日の詰まる

伊東次雄

ふる里の餅つく朝はくばる朝

森山圭悦

通院へ極寒の朝バスを待つ

森山圭悦

寒なまこ天地無用の句読点

山本俊郎

さっぽろの雪をのこして節子逝く

山本俊郎

読初の紅の付紙ふたつみつ

上澤孝二

全剥ぎの小鳥瞑らず冬館

上澤孝二

病室に世界の花の新暦

松原智津子

吊り橋に一系列の日向ぼっこ

松原智津子

初空や七十億の物語

木宮節子

マイシナリオ使い果たして新日記

木宮節子

○ 今月は解説評はありません。